

名前		男女	学年	幼児	才
学校・保育所名					

A. 生活

- どこに住んでるの？(町名・アパート名等)
() 広さ () 畳
- 朝、起きる時間は？ () 時
夜、寝る時間は？ () 時
- 何時頃まで外で遊んでいるの？ () 時頃
- 外で遊んでいる時間は？ () 時間くらい
・学校のある時は () 時間くらい
・どんな事して遊ぶの
- 家で遊ぶ時間は？ () 時間くらい
・学校のある時は () 時間くらい
・どんな事して遊ぶの
- お父さんは何して働いているの？
()
お母さんは何して働いているの？
()
- 食事は…
・家族とする ・一人で食べる ・友達と外食
・何食、食べる？(3回 2回 1回 回)
- おこづかいは1日いくら？
・100円以下・100円・200円・300円・400円・
・500円・500円以上 () 円
・決まっていないが、大体 () 円位
- おこづかいで何をかうの？どんなことに使うの？
・ゲームセンター・おかし・食事
・その他 ()
- 生まれた時からここに住んでるの？
・ハイ
・イエ⇒どこから引越してきたの？
()
何才・何年の時？ ()
- 学校でイジメられたことある？
・ない・ある⇒なんと行って、どんなふうにか？

B. 地域

- この街が好き？ ・好き ・きらい
・なぜ？
 - この街がどんなふうになればいいと思う？
 - 特によく知っているおじさんはいる？ ・いない
・いる↓ () 人
・遊んでくれるおじさん？
・お金をくれるおじさん？
・幾らくらいくれる？ () 円
・遊びを教えてくださいとおじさんいる？
どんな遊び？
 - おじさんたちをこわいと思ったことある？
・ない・ある⇒どんな時？
 - おじさんたちにおこられたりしたことある？
・ない・ある⇒どんな時？どんなふうにか？
 - おじさんをおちよくって遊んだことある？
・ない・ある⇒どんなふうにか？
その時おじさんどうした？
 - やさしいおじさん、おもしろいおじさんの話して
 - カギのかかっている公園で遊んだことある？
・ある・ない
 - 公園の金網をどう思う？
 - 公園で寝ているおじさんたちをどう思う？
 - お酒をのんでるおじさんをどう思う？
 - おじさんたちがどんな仕事してるか知ってる？
・知らない・知ってる⇒具体的に ()
 - おじさんたちが働いてる所、見たことある？
・ない・ある⇒いつ、どこで ()
- C. あそび
- 今、どんな遊びがはやってるの？
どんな遊びをしてるの？
 - 主にどこで遊ぶの？ ・公園 () 公園・路地
・友達の家・自分の家・ゲームセンター・こどもの家・市民館・こどもの里
- D. 希望
- どんな遊びがしたい？
 - どんな遊び場所がほしい？
 - 将来どんな仕事したい？

「子ども調査補充大人用アンケート」

—— 調査結果の概要 ——



はじめに

この「大人用アンケート調査」は「新今宮小
中学校跡地利用」を考えるに当たって「釜ヶ崎」
における大人(労働者)と子どもとの関係「跡

地利用」についての大人の意見を、大人の側から知るために実施されたものである。「子ども調査」の補充調査であること、準備も十分でなかった関係上、調査項目も限られ、十分なものではないが、以下はその調査結果の概要である。

1. 話を聞いた人

— (調査対象者)の属性

この調査の回答者は「子供調査」の調査地点や路上で任意に、調査に協力していただいた方々である。全員で143名(男139名、女4名)である。回答者の属性に関する質問は年令、出身地、在住年数のみである。したがって回答者がいかなる社会階層に属するかは正確にはわからない。ただ調査の主旨から対象者を主要には日雇労働者とされた。調査地点別にみると、三角公園や路上での聞き取りが96名、ゲームセンタータウンなど屋内34名、不明13名となっている。屋外での回答者はそのほとんどが労働者と考えられる。また屋内での回答者の中にも労働者が多く含まれると考えられるから、少なくとも7割以上が日雇労働者と考えてよい。

年令

回答者の平均年令は48.6才、年令階層分布は表1の通りで40代38名、50代36名と平均年令前後の階層が目立って多くなっている。平均年令48.6才は83年調査の44.7才、84年西成労働福祉センター調べ46.6才に比べて、いく分、高令に傾いている。その点、聞き取りが主として屋外で行われたという特殊の事情によるものか、「釜ヶ崎」の労働者が老令化したことによるのかは不明である。

出身地と在住年数

回答者の出身地分布は表2である。大阪出身21名を初めとして全国3都府県に渡っている。地区別では近畿38名(26.6%)で最多、九州36名(22.4%)中・四国2

6名(18.1%)の順となっており全体の7割占めている。83年調査結果とも大差なく、今回の調査対象者は出身地からみると、日雇労働者の出身地と類似している。

在住年数は平均で19.3年でかなり長期となっている。ただ生れてからずっと西成(釜ヶ崎)に住んでいる人が5名おり、これを除くと18.3年となる。いずれにしても83年調査の12.9年に比べると6.4年長くなっている。この理由として、平均年令が83年調査より高くなっていること。調査日が「お盆」直後であり、仕事あまり出でいなかったこと。特に「釜ヶ崎」では仕事の少ない時、「顔付け」によって高令者が就労から排除される傾向があり、仕事の少ない人が公園などいることが多いなどが考えられる。

以上今回の調査が「子供調査」の補充調査で調査項目が限られていたため、回答者の社会的属性については不十分にしか解明できない。しかし以下に示す143名の回答者の調査結果は「釜ヶ崎」に居住する日雇労働者の見解が示されていると考えてよいだろう。

表1- 対象者の年令

年令階層	人数	%
20才代	6	(4.2)
30才代	17	(11.9)
40才代	38	(26.5)
50才代	36	(25.2)
60才代	12	(8.4)
70才以上	5	(3.5)
不明	29	(20.7)
計	143	(100)

平均年令 48.6才
平均在住年 19.3年

表-2 対象者の出身地

出身地	人数	%
大阪	21	(26.6%)
滋賀	2	
和歌山	8	
兵庫	3	
京都	2	
三重	1	
奈良	1	(40.4%)
山口	4	
広島	6	
岡山	2	(22.4%)
島根	2	
鳥取	1	
福岡	8	
大分	3	(22.4%)
熊本	4	
長崎	3	
鹿児島	7	
沖縄	3	
沖縄(九州)	4	

2. 大人(労働者)と子どもの関係

周知のように「釜ヶ崎」は日本最大の寄せ場であり、ドヤ街社会である。ここに居住する人口の半数は土木・建築の現場労働に就業する日雇労働者である。それ故、労働・生活のスタイルに独特のものがある。更に日雇労働者の9割は単身の男子である。ある者は家族との音信の切れている者、故郷に家族を残している者、家族解体の結果、一人である者など様々な人生経歴をもった人々である。他方「釜ヶ崎」には子供が少ないと云われる。実際、町中を歩いてみると、子供と女性の数が少ないことにすぐ気付く。「釜ヶ崎」地区の児童・生徒が通学する学校は萩之茶屋小学校と今宮中学校であるが、子供たちを取り巻く、家庭環境・社会環境は複雑で問題も多い。今宮中学校ケースワーカー宮脇さんの報告によれば、欠損家庭が、極めて高いこと(26.3%)、保護・準保護家庭が多いこと(26.3%)、

出身地	人数	%
徳島	3	(7.7%)
香川	2	
高知	2	
愛媛	4	
愛知	1	(6.3%)
岐阜	1	
新潟	3	
石川	1	(7.7%)
富山	3	
東京	1	
神奈川	1	(7.7%)
埼玉	1	
千葉	1	
宮城	3	
北海道	4	
不明	27	(18.9%)
計	143	(100%)

ある。」と指摘されている。同じ資料で今宮中学校生徒の親の職業をみると552名中日雇い5人(0.9%)、建築36人(6.52%)と、日雇労働者人口に比して随分、少ない。大半は自営業(197人)、会社員(175人)が占めている。この条件下で「釜ヶ崎」の大人(労働者)と子供はどうような関係にあるのだ

ろうか。この労働者は地元出身の人を除いて地縁的・血縁関係を何も持っていない。このような労働者が子供と出会うのは三角公園や路地などの屋外であり、ゲーム・センターなどの遊戯場である。そこで友好関係が生れ、一緒に遊んだり、小遣銭を与えたりする。逆にトラブルも生じる。労働者が公園を占拠して、子供が遊べないとか、酔っぱらった大人が子供をからかったり、逆に子供が酔っぱらって寝ている労働者やアオカン者(野宿者)をからかったり、いたずらしたりする。極端な場合には暴行事件が起きたりもする。

以下ではこの労働者と子供の関係に対する労働者側からの調査結果を示した。

A 労働者と子どものつながり—対立の面

この点に関する質問は、①遊んでいる子どもをうるさいと思ったことがあるか(表3)②「子どもにおちょくられたことがあるか」(表4)の二つである。

まず「うるさい」と思ったかどうかについて全体の39人(27.3%)が「ある」と答えている。「世代別では60代と年令不明グループが各々4人(33%)、10人(34.5%)と平均より高率となっている。20代は1人(16.7%)と最低である。

「どんな時にそう思ったか」という問に対しては無回答が多いが、「ようけでさわぐとき」(男4才)「酒を飲んでいる時」(男51才)「けとばしたりされた時」(男)などがあげられている。表4について。「おちょくられた」経験のある者39人(27.3%)で、世代別には年令不明グループ、60代、20代が平均より高率となっている。ただ60代と20代では少し意味が違う様に思う。20代6人のうち

4人は地元生れの青年であり、子どもたちとは良く知っている間柄にあって、「おちょくり」もいわば親愛の情の現れと解される。全体として特に高令者が「おちょくられた」という傾向はみられないが、どんなようにという問に対して代表的答えはつぎのようなものである。

一つは「アホ」とか「ボケ」とか、通りすがりに悪口をいわれたりするケース。「公園で青カンしている時ピンを投げられた」(男30才)といった、物や爆竹など投げつけられるケースなどである。これらの子どもの行為は単なるいたずらに過ぎない場合もあるが、心底に悪意

表-3 遊んでいる子どもをうるさいと思ったことがあるか。

年齢別	ある(%)	ない(%)	N. A.	計
20才代	1(16.7)	4(66.6)	1(16.7)	6(100)
30才代	4(23.5)	11(64.7)	2(11.8)	17(100)
40才代	11(28.9)	24(63.2)	3(7.9)	38(100)
50才代	9(25.0)	26(72.2)	1(2.8)	36(100)
60才代	4(33.3)	8(66.7)	0(0.0)	12(100)
70才以上	0(0.0)	5(100)	0(0.0)	5(100)
不明	10(34.5)	16(55.2)	3(10.3)	29(100)
計	39(27.3)	94(65.7)	10(7.0)	143(100)

表-4 子どもにおちょくられたことがあるか。

年齢別	ある(%)	ない(%)	N. A.	計
20才代	2(33.3)	3(50.0)	1(16.7)	6(100)
30才代	5(29.4)	10(58.8)	2(11.8)	17(100)
40才代	9(23.7)	27(71.0)	2(5.3)	38(100)
50才代	9(25.0)	26(72.2)	1(2.8)	36(100)
60才代	4(33.3)	8(66.7)	0(0.0)	12(100)
70才以上	0(0.0)	5(100)	0(0.0)	5(100)
不明	10(34.5)	16(55.2)	3(10.3)	29(100)
計	39(27.3)	95(66.4)	9(6.3)	143(100)

表-5 子どもたちと遊んだことがあるか。

年齢別	ある(%)	ない(%)	N. A.	計
20才代	4(66.6)	1(16.7)	1(16.7)	6(100)
30才代	6(35.3)	10(58.8)	1(5.9)	17(100)
40才代	16(42.1)	19(50.0)	3(7.9)	38(100)
50才代	17(47.2)	17(47.2)	2(5.6)	36(100)
60才代	4(33.3)	8(66.7)	0(0.0)	12(100)
70才以上	2(40.0)	3(60.0)	0(0.0)	5(100)
不明	12(41.4)	15(51.7)	2(6.9)	29(100)
計	61(42.7)	73(51.0)	9(6.3)	143(100)

に満ちているケースもみられる。他方子どもが「おっちゃんのけというてくる」(男52才)というように遊ぶ場所が少ないことから生じたであろうケースもあげられていた。

以上「うるさいと思ったことがある」。「おちょくられたことがある」いずれも39人という全体の約 $\frac{1}{4}$ 強に当たる数値は他に比べる資料が手元にないので、高いのかどうか即断することはできないが、常識的にみて、労働者と子どもの関係が非常に良好であるとはいえない。

質問項目8の「子どもたちを見て一言」(表11)という項で、「釜ヶ崎」の子どもは「恐い」「なまいきだ」「子どもらしくない」といったマイナス評価を表明している労働者が34人、「別に何とも思わない」と無関心を示している者13人おり、「かわいい」「元気だ」「素直」などプラス評価の27人を大きく上回っている。「おちょくられた」などの生活体験からか、少なくとも全体の $\frac{1}{3}$ の労働者が「釜ヶ崎」の子どもに対しマイナス評価を下している。

**労働者と子どもの
つながり—友好の面**

この点に関する質問は以下の3項目で

ある。

- ③ 子どもたちと遊んだことがあるか
- ④ よく知っている子どもはいるか
- ⑤ 子どもにお金をあたえたことがあるか

「遊び」について

子どもたちと遊んだことがあると答えた者は全体143人中61人(42%)である。世代別では20才代の6人中4人(66%)が最高で50才代47%、40才代42%と続いている。30才代・60才代は平均より5%~9%低率となっているが、世代別で著るしい特徴は見い出せない。遊びの内容では公園などで野球やキャッチボールをすることを16人いてトップで、その他ゲームをしたり、話をする、かき氷やチョコレートなど物を与えるという回答がみえる。

表11 子どもたちを見て思うことを一言(O. A)

- (1) 好意的評価(プラス=イメージ) 27人
(元気だ、かわいい、素直だ、昔と変わらん、など)
 - (2) 中間的評価 41人
(別になんとも思わない) (13人)
(環境が悪い、遊び場所がなくてかわいそう、など)
 - (3) 否定的評価(マイナス=イメージ) 34人
(なまいき、たちよくない、ませている、など)
 - (4) その他、提言 14人
 - (5) N. A. 27人
- 計 143人

「知っている子ども」

よく知っている子どもはいるかの回答は表6の1である。また知りあいの子どもの数をあげた者の分布が表6の2である。20才代の66%が最高で、60才代8%と極端に低率であることを除いて、世代別に特色はみい出せない。ただ注目すべきことは前項つまり「子どもと遊んだことがある」と答えた者61人に対し、よく知っている子どもがいる」と答えた者45人と11%下回っていることである。特に40、50才の各世代はその落差は25%と22%になっている。この落差は一体何を意味するのか。これは労働者が子どもと遊ぶ場合、どこの、誰れかもよく知らないで、公園などで偶然、居合せ遊んでいるというケースがあることを示唆する。「子どもにあたえたお金」(表7の1)

子どもにお金をあたえた経験のある者、143人中64人(44%)と以外に多い。これも「よく知っている子どもがいる」45人(31%)に比して高率であり、よく知らない子どもにお金をあたえている労働者の存在を物語って

表6の1 よく知っている子どもはいるか

年齢別	いる(%)	いない(%)	N. A(%)	計(%)
20才代	4(66.6)	1(16.7)	1(16.7)	6(100)
30才代	7(41.2)	8(47.0)	2(11.8)	17(100)
40才代	3(34.2)	23(60.5)	2(5.3)	38(100)
50才代	9(25.0)	25(69.4)	2(5.6)	36(100)
60才代	1(8.3)	10(83.4)	1(8.3)	12(100)
70才以上	2(40.0)	2(40.0)	1(20.0)	5(100)
不明	9(31.0)	16(55.2)	4(13.9)	29(100)
計	45(31.5)	85(59.4)	13(9.1)	143(100)

表6の2 よく知っている子どもの数の分布

子どもの数	1	2	3	4	5	6~9	10~19	20以上
人数	2	6	6	2	7	1	5	3
「いる」のうち人数をあげた者	32人 N. A. 13人							

いる。世代別では20才代が6人全員がお金を
 あたえたことがあり、ついで40才、50才代
 が50%と高率で続いている。30才代、年令
 不明グループは35%、24%と低くなっている。

あたえたお金の額の分布が表7の2である。
 下は10~20円から最高額3千円となっているが、
 100円~200円をあたえた者が28人と最
 も多い。その他、ジュースなど物をあたえた者
 が数人いる。

なお、お金をあたえ際に、自分(労働者)か

ら進んであたえたのか、子どもにせがまれてあ
 たえたのかは33人と31人ではほぼ拮抗してい
 る。

通常、大人が子どもに小遣銭を与える場合、
 それは、親戚の子どもであったり、近所をよく
 知っている子どもであるのが普通である。とこ
 ろが「釜ヶ崎」では、労働者と子どもの間には
 そのような関係はむしろ少ない。一時的・偶然
 的に生れた関係の方が多い。とすれば、お金を
 与えることで関係が生まれるという傾向も読み
 とれないことはない。

3. 「公園の金網」と「新今宮小中学校跡地」 についての労働者の意見

公園の金網についてどう思うか

この間に対する自由回答を事後的に大分類し
 たものが表8である。金網の存在を否定・拒否
 する者、143人のほぼ6割に当る83人、肯定
 する者18人(12%)で、拒否する者が大
 多数を占めている。残りは「わからない」と無
 回答である。

拒否の理由をみると、「あかん」「公園らし
 くない」「ない方がよい」と軽い反対理由を上
 げている者が多い。ついで「有効に使えない」
 「子供に開放してほしい」等と公園の機能的活
 用を、金網の存在が妨げていることを挙げてい
 るのがかなり目立った。「あれは差別、朝鮮人
 ・韓国人差別と同じナンセンス」(男41才、
 埼玉出身)「グロテスク、行政上やむを得ずと
 いうのがまかり通っている」(男大阪出身)「よ
 くはない、子供の教育上よくない、子供の遊び場
 として解放したらよいのに。とにかくおかしい、
 雰囲気わるい」(男69才、九州出身)と理由
 を挙げ、金網の存在は「釜ヶ崎」に対する社

会的・行政的差別であると、強い拒否の姿勢を
 示している者が数人いる。

金網の存在を肯定する者は全体からみればごく
 少数派である。ここでもその理由は「あつても
 いい」「ある方がよし」「必要」といった程
 度の理由が多いが、なかには「子どものために
 は金網はる方がよい」(男56才、愛知出身)
 「当然だと思う。ガラの悪い者がいる」(男58
 才、鹿児島出身)「あんこが入らないように」
 (男30才)というように、労働者や酔っぱら
 いがいて、子どもが遊ばれないという理由が目
 立つ。それに、「釜ヶ崎」という土地柄から仕
 方ないとの意見もある。

「新今宮小中学校の跡地」

新今宮小中学校の認知についての結果は、表
 9である。「知っている」と答えた者143人
 のうち113人ではほぼ8割となっている。移動
 の激しい、比較的地縁の薄い「釜ヶ崎」の労働
 者という状況を考えれば高い認知度といえるか
 も知れない。また「跡地利用」に対する関心や

期待が予想外に高いことの反映とも考えられる。

ついで、「では跡地をどう使ったらよいか」
 という自由回答を求めたところ様々な意見が出
 されている。なかには中国残留帰国孤児のセン
 ターをという奇抜な提案があったが、大方は子
 どもか大人・労働者のための施設をという声で
 あった。そこで厳密ではないが、①「子どもの
 ための施設」②「子どもと大人のための施設」
 ③「大人のための施設」④「その他」に大分

類して集計した結果が表-10である。一番
 多かったのは「大人のため」という意見で
 43人であった。そして、その内容を見
 ると安い宿泊所(17人)、娯楽・文化セン
 ター(12人)というのが特に多い。
 二番目は「子どもと大人のため」で30
 人がこの意見を挙げている。この中では「
 生活センター」構想に賛同の意を示してい
 る者10人で目を引く、三番目は「子ども
 のみのため」で23人、遊び場としてが1
 2人で最も多い。

こうした結果をみると「釜ヶ崎」の
 大人・労働者は「新今宮小中学校の跡
 地問題」についてよく知っており、そ
 して、それが子どものためであれ、労
 働者のための施設であれ、その有効利
 用を望み、強い期待をもっていると読
 みとれよう。

表-7の2 子どもに
 あたえた金額の分布

100円未満	4人
100~200	28
200~300	2
300~400	3
400~500	1
500~1000	8
1000円以上	6
合計	52人
(N.A.)	12人

表-8 公園の金網をどう思うか。

	人数(%)
よくない(マイナス=イメージ)	83人(58.0)
よい(プラス=イメージ)	18(12.6)
考えたことない(D.K.)	20(14.0)
N.A.	22(15.4)
計	143(100)

表-7の1 子どもにお金をあたえたことがあるか。

年令別	ある(%)	ない(%)	N.A.(%)	計(%)
20才代	6(100)	0(0.0)	0(0.0)	6(100)
30才代	6(35.3)	9(52.9)	2(11.8)	17(100)
40才代	20(52.6)	16(42.1)	2(5.3)	38(100)
50才代	18(50.0)	16(44.4)	2(5.6)	36(100)
60才代	5(41.7)	7(58.3)	0(0.0)	12(100)
70才以上	2(40.0)	3(60.0)	0(0.0)	5(100)
不明	7(24.1)	18(62.1)	4(13.8)	29(100)
計	64(44.1)	69(48.3)	10(7.0)	143(100)

表-9 新今宮小中学校を知っているか

年令別	知っている(%)	知らない(%)	N.A.(%)	計(%)
20才代	6(100)	0(0.0)	0(0.0)	6(100)
30才代	14(82.3)	1(5.9)	2(11.8)	17(100)
40才代	32(84.2)	5(13.2)	1(2.6)	38(100)
50才代	27(75.0)	5(13.9)	4(11.1)	36(100)
60才代	10(83.3)	2(16.7)	0(0.0)	12(100)
70才以上	4(80.0)	0(0.0)	1(20.0)	5(100)
不明	20(69.0)	8(27.6)	1(3.4)	29(100)
計	113(78.0)	21(14.7)	9(6.3)	143(100)

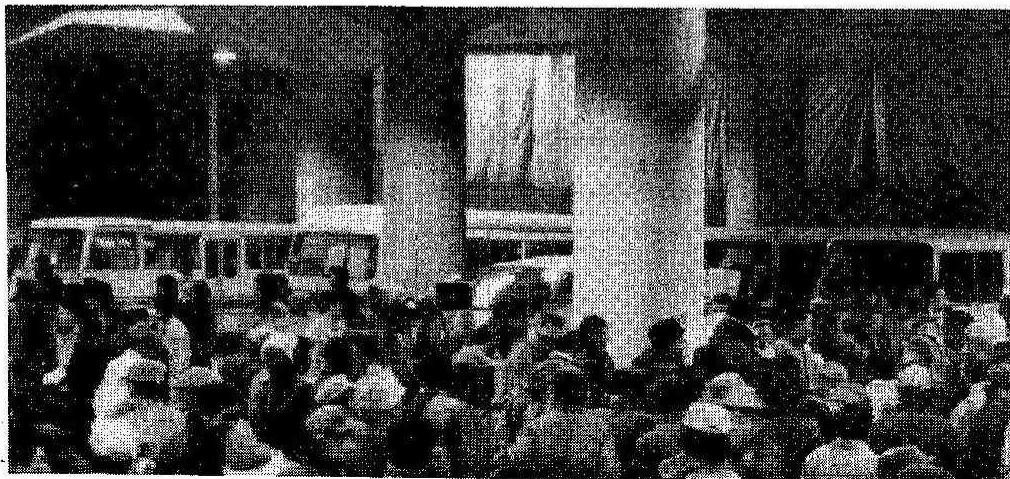
表-10 新今宮小中学校「跡地」をどう使ったらよいと思うか

(1) 子どもの施設	23人	(遊び場、幼稚園、教育施設など)
(2) 子どもの大人の施設	30	(生活センター、運動場、公園など)
(3) 大人の施設	43	(宿泊所、娯楽場、文化センターなど)
(4) その他	7	(認定窓口、中国帰国者施設など)
(5) D.K.	9	
計	113人	

子供調査補足大人用アンケート 1986年8月 日 時
 記入者 () 聞き取り場所 ()

氏名	歳	出身地	在住年
----	---	-----	-----

- 遊んでいる子どもをうるさいと思ったことがあるか
 ・ない・ある (どんな時に)
- 子どもにおちょくられたことはあるか
 ・ない・ある (どんな時に)
- 子どもたちと遊んだことはあるか
 ・ない・ある (どんな時に・どのように)
- よく知っている子どもはいるか
 ・いない・いる () 人
- 子どもにお金をあたえたことがあるか
 ・ない・ある
 ・自分からあたえたのか
 ・子どもがねだったのか
 ・幾らくらいあたえたか () 円
- 公園の金網をどう思うか
- 新今宮小中学校を知っているか
 ・知ってる・知らない
 ・「跡地」をどう使ったらいいと思うか
- 子どもたちを見て思うことを一言



新今宮小中学校跡地の有効利用を！

——実態調査から提言——

